

カンボジアで寺院の浮き彫り壁画の保存などを日本人の研究者が進めている。  
多角的な調査で分かった構造や劣化原因である微生物の除去などを広く紹介し、  
文化遺産の未来を考える。



# アンコール遺跡・バイヨン寺院を<sup>まも</sup>護る

日時：平成 21 年 11 月 21 日 (土) 午後 13 時～ 16 時 30 分

場所：国士館大学 世田谷校舎 図書館多目的ホール

◆ 定員 500 名 (申込先着) 参加費無料

主催：国士館大学・AJ 研究センター  
早稲田大学・日本政府アンコール遺跡救済チーム (JASA)  
朝日新聞社、東アジア文化遺産保存学会

## 主催者挨拶

国士館大学学長 / 朝日新聞社代表 / 研究代表者

## 研究報告

バイヨン寺院保存の JASA プラン (中川武 / 早稲田大学)

バイヨン寺院をつくる砂岩 (内田悦生 / 早稲田大学)

砂岩の着生微生物 (片山葉子 / 東京農工大学)

## 研究報告

浮き彫り着生物のスペクトル解析 (池内克史 / 東京大学)

バイヨン寺院の浮き彫りの修造 (沢田正昭 / 国士館大学)

## 総合討議

〈講演者 5 名に加え 松井敏也 / 筑波大学、下田一太 / 早稲田大学〉

(司会：天野幸弘 / 朝日新聞)

お申込みは先着 500 名様となります。氏名・電話番号・希望人数を明記の上、下記までご連絡ください。

国士館大学 アジア・日本研究センター

ASIA JAPAN RESEARCH CENTER

TEL: 042-736-1070 / FAX: 042-736-2420

E-mail: ajrc@kokushikan.ac.jp